

## 今号の作業

# フューエルコックの組み立てと、ブレーキスイッチを取り付ける



今号では、タンクモール右にフューエルコックを組み付ける。また、33号でメインフレーム右に取り付けたブレーキペダルに、連動するリヤブレーキスピンドルを取り付け、スイッチボックスの動作確認を行う。

### 今号のパーツ



- ①タンクモール右×1
  - ②フューエルコックA×1
  - ③フューエルコックB×1
  - ④樹脂ワッシャー×2
  - ⑤ビス(Aタイプ)×2(※1本は予備)
  - ⑥ビス(Gタイプ)×3(※1本は予備)
  - ⑦リヤブレーキスピンドル×1
  - ⑧スイッチボックス×1
  - ⑨フューエルコックチューブA×1
  - ⑩フューエルコックチューブB×1
- ※⑨⑩は今回の組み立て作業に使用しないので、大切に保管しておこう。

#### 用意するもの

- ・メインフレーム右(36号で組み立てたもの)
- ・マスキングテープ

#### 使用する道具

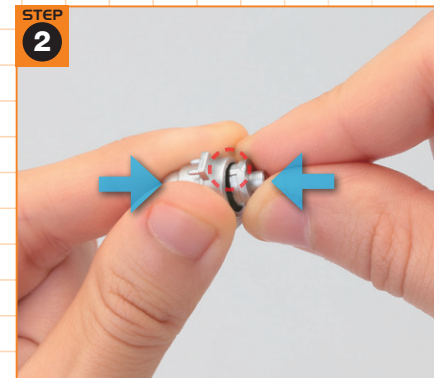
- ・+(プラス)ドライバー(1番)
- ・ロングタイプ・ドライバー
- ・瞬間接着剤(低白化タイプ)

#### あると便利な道具

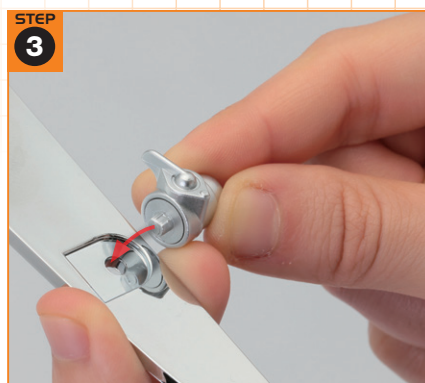
- ・プライヤー
- ・ペーパータオル(ティッシュペーパーでも可)
- ・ホビーやすり(目の細かい、細い棒状のもの)



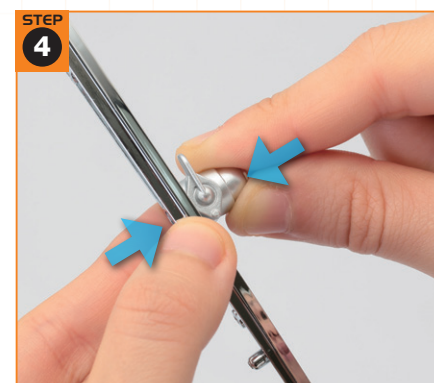
②フューエルコックAと③フューエルコックBを用意する。フューエルコックA上部の開口部と、フューエルコックBの取り付け部には、それぞれ窪みと出っ張りがあるので、それを合わせてはめ込む。



フューエルコックAにフューエルコックBを強く押し込む。はめ込み具合が緩い場合は、接合部に低白化タイプの瞬間接着剤を少量塗布しておく。



①タンクモール右を用意し、平滑な面を上に向ける。中央部に窪みがあるので、そこに②で組み立てたフューエルコックを写真の向きに差し込む。



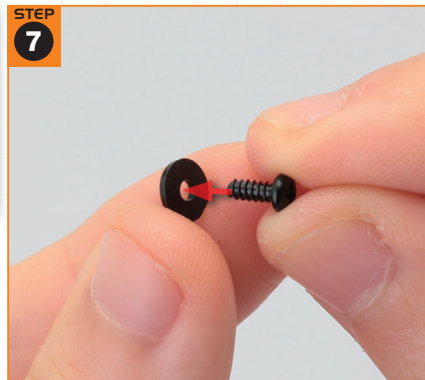
フューエルコックを強く押し込んで、タンクモール右に取り付ける。



STEP 5  
36号で組み立てたメインフレーム右を用意し、タンクモール取り付け部分の穴をチェックする。写真のように、穴の内側にバリが残っている場合は削り落とす必要がある。



STEP 6  
ホビー用やすりを使い、メインフレーム右の穴の内側に残ったバリを削り落とす。なお、最初からバリが残っておらず、きれいに穴が開いていれば、この作業は必要ない。



STEP 7  
④樹脂ワッシャーと⑥ビス(Gタイプ)を用意し、樹脂ワッシャー中央の穴にビスをセットする。



STEP 8  
1番の+(プラス)ドライバーを使い、ビスをワッシャーにねじ込む。奥までねじ込んでおこう。



STEP 9  
2つ目の樹脂ワッシャーにも、⑦、⑧の手順でGタイプのビスを取り付け、同じものを2セット完成させる。



STEP 10  
メインフレーム右の燃料タンク取り付け部の下側から、タンクモール右をセットする。



STEP 11  
タンクモール右の裏側から突き出しているピンをメインフレームの穴に差し込む。



STEP 12  
⑨で用意したワッシャー付きビスを写真のビス穴にセットし、1番の+(プラス)ドライバーを使ってねじ込み、固定する。あまり強くねじ込むと、樹脂ワッシャーやビス穴を傷めてしまうので注意しよう。



もう片側のビス穴にもワッシャー付きビスをセットし、ドライバーでねじ込む。これでタンクモール右の固定は完了だ。



メインフレーム右の下部に巻き付けておいたマスキングテープをはがす。テープで押さえておいたブレーキペダルが抜け落ちないように注意しよう。



⑦リヤブレーキスピンドルを用意する。このパーツには表面と裏面があり、裏面には写真に示した半円状の穴が設けられている。この穴にブレーキペダルの軸部分が挿入される。



リヤブレーキスピンドルの穴に、ブレーキペダルの軸部分の形状を合わせて、穴の深さの半分程度まで差し込む。このとき、リヤブレーキペダルが抜け落ちないように、メインフレーム右を平らな台の上に置いた状態で作業しよう。



写真のようにメインフレーム右の下部を上にして立て、ブレーキペダルの軸部分の付け根とリヤブレーキスピンドルを挟むようにして持ち、力を入れて奥まで押し込む。

### × リヤブレーキスピンドルが押し込めない場合 ×

STEP⑰で、リヤブレーキスピンドルが奥まで押し込めない場合がある。これはスピンドルの穴の内側に設けられたリブが削れ、穴の底に溜まっているため。細い棒状のホビー用ヤスリを

使い、穴の奥を少し削ると奥まで差し込めるようになる。また、ペーパータオルでブレーキペダルとリヤブレーキスピンドルを包み、プライヤーで締め込むと簡単に押し込める。



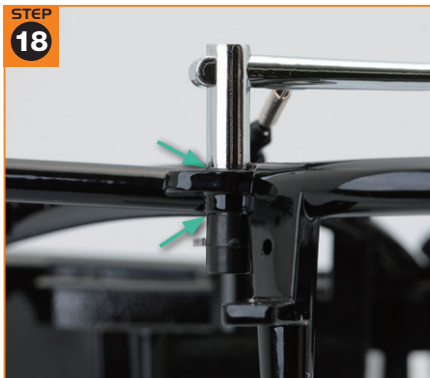
リヤブレーキスピンドルの穴の内側には、脱落防止用のリブが設けられている。これが削れて穴の奥にたまってしまうと、ブレーキペダルの軸を押し込めなくなる。



リヤブレーキスピンドルの穴の奥を、細いホビー用やすりで少し削っておく。



パーツに傷が付かないよう、折りたたんだペーパータオルで包み、プライヤーで挟み込むと簡単に押し込める。



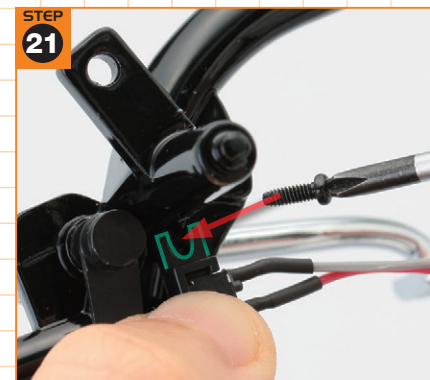
STEP 18  
リヤブレーキスピンドルを押し込み、ブレーキペダルを固定した状態。ブレーキペダルが軽く動き、なおかつガタガタしなければOKだ。ガタガタするのはスピンドルの押し込み具合が足りないので、奥までしっかり押し込むこと。また、ペダルの動きが渋い場合は、スピンドルを少し引っぱって緩めるとよい。



STEP 19  
メインフレーム右の裏側下部、リヤブレーキスピンドルを取り付けた部分のすぐ隣に⑧スイッチボックスを取り付ける。まず写真のように並べてみて、取り付け部分の形状を確認しよう。



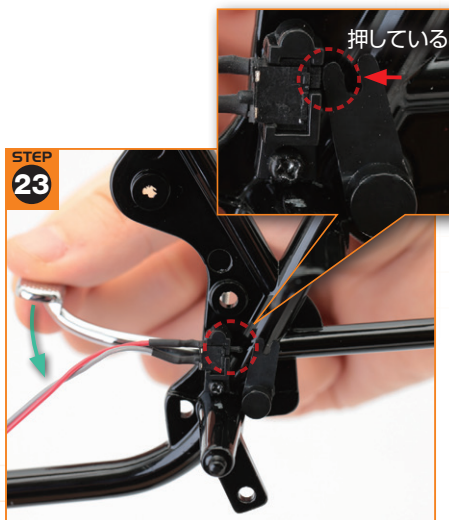
STEP 20  
アーム部でビス穴を挟む  
スイッチボックスの取り付け面から突き出しているピンをメインフレームの穴に差し込み、写真で示したアーム部が、下のビス穴を挟む位置になるよう調整する。



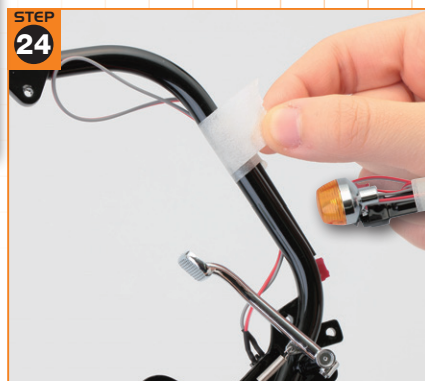
STEP 21  
⑤ビス(Aタイプ)を「ロングタイプ・ドライバー」の先端に取り付け、そのまま写真のビス穴へセットする。この作業では、軸の太いドライバーではフレームの塗料を削り落としてしまう可能性があるため、必ずロングタイプ・ドライバーを使用すること。



STEP 22  
そのままロングタイプ・ドライバーを右回りに回し、Aタイプのビスをねじ込んでスイッチボックスをメインフレームに固定する。

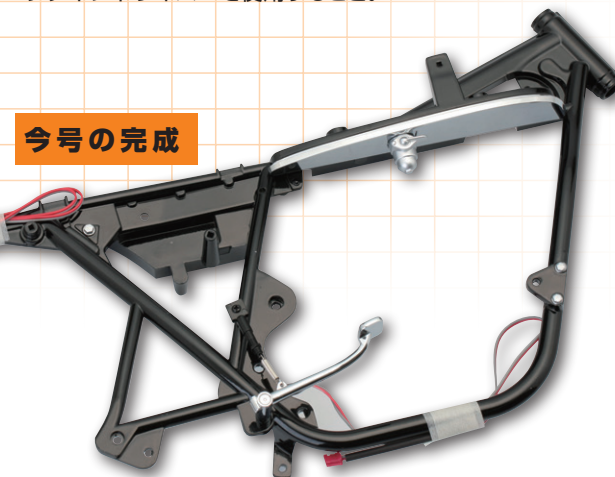


STEP 23  
ブレーキペダルを下の写真の矢印のように動かしてみよう。同軸のブレーキスピンドルが回転し、スイッチボックスから突き出したプッシュスイッチを押していることが確認できる(上の写真参照)。ブレーキスピンドルのアーム部が曲がっていると、スイッチにうまく当たらないので、アームが曲がっている場合は真っ直ぐになるよう伸ばしておく。



STEP 24  
マスキングテープを使い、スイッチボックスから出ているコネクタケーブルを、メインフレーム右に軽く留めておく。

今号の完成



これで今回の作業は完了だ。ポイントはリヤブレーキスピンドルの取り付け。ガタがなく、スムーズに動くよう押し込むときの力加減を調整しよう。また、その作業時にスピンドルのアーム部分が曲がりやすい。曲がったままだとスイッチをうまく押すことができないので、必ず真っ直ぐになるよう伸ばしておこう。組み立てたメインフレーム右は、取り付けたパーツが破損しないよう平らな台の上に置き、次回の作業に備えて大切に保管しよう。